

Asia Indicators

発表日: 2022年9月9日(金)

台湾の外需に米中摩擦の余波が及ぶ(Asia Weekly(9/5~9/9))

～経済制裁を受けて中国本土向けの輸出入に大きく下押し圧力が掛かる～

第一生命経済研究所 経済調査部
 主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/5(月)	(タイ)8月消費者物価(前年比)	+7.86%	+7.85%	+7.61%
9/6(火)	(フィリピン)8月消費者物価(前年比)	+6.3%	+6.3%	+6.4%
	(豪州)金融政策委員会(政策金利)	2.35%	2.35%	1.85%
	(台湾)8月消費者物価(前年比)	+2.66%	+3.05%	+3.36%
9/7(水)	(豪州)4-6月実質GDP(前年比)	+3.6%	+3.5%	+3.4%
	(台湾)8月輸出(前年比)	+2.0%	+9.5%	+14.2%
	8月輸入(前年比)	+3.5%	+7.1%	+19.4%
	(中国)8月輸出(前年比)	+7.1%	+12.8%	+18.0%
	8月輸入(前年比)	+0.3%	+1.1%	+2.3%
9/8(木)	(マレーシア)金融政策委員会(政策金利)	2.50%	2.50%	2.25%
9/9(金)	(フィリピン)7月輸出(前年比)	▲4.2%	--	+1.0%
	7月輸入(前年比)	+21.5%	--	+26.3%
	(中国)8月消費者物価(前年比)	+2.5%	+2.8%	+2.7%
	8月生産者物価(前年比)	+2.3%	+3.1%	+4.2%
	(マレーシア)7月鉱工業生産(前年比)	+12.5%	+15.2%	+12.1%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾]～米ペロシ下院議長の訪問による米中緊張と経済制裁を受け、輸出入双方に下押し圧力が掛かる～

6日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+2.66%となり、前月(同+3.36%)から伸びが鈍化した。前月比は▲0.09%と前月(同▲0.03%)から2ヶ月連続で下落しており、国際的なエネルギー資源価格の底入れが一服していることを受けてエネルギー価格の上昇圧力が後退しているほか、食料品価格も下落に転じるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退していることが影響している。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.73%と前月(同+2.73%)と同じ伸びで推移している。ただし、前月比は+0.04%と前月(同▲0.01%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、エネルギー価格の上昇一服による輸送コストの上昇圧力の後退を受けて財価格に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、感染一服による経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価は上昇が続いており、インフレ圧力がくすぶる状況は変わっていないと捉えられる。

7日に発表された8月の輸出額は前年同月比+2.0%となり、前月(同+12.4%)から伸びが鈍化し

た。前月比も▲9.8%と前月（同+0.1%）から3ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど大きく頭打ちしている。米国のペロシ下院議長の台湾訪問を受けた米中間の緊張の高まりに伴い中国本土が台湾に対する経済制裁を科したことを反映して、最大の輸出相手である中国本土向け輸出に大きく下押し圧力が掛かったことが重石となっている。なお、主力の輸出財である半導体など電子部品関連の輸出は引き続き底堅く推移しており、輸出を下支えする展開が続いている。一方の輸入額も前年同月比+3.5%となり、前月（同+19.4%）から伸びが鈍化している。前月比も▲5.4%と前月（同▲0.9%）から3ヶ月連続で下落しており、中期的な基調も下落傾向に転じるなど輸出同様に頭打ちしている。商品市況の底入れの動きに一服感が出ているほか、中国本土による経済制裁の動きも輸入の足かせとなっている。結果、貿易収支は+29.86億ドルと前月（+50.34億ドル）から黒字幅は縮小している。

図1 TW インフレ率の推移

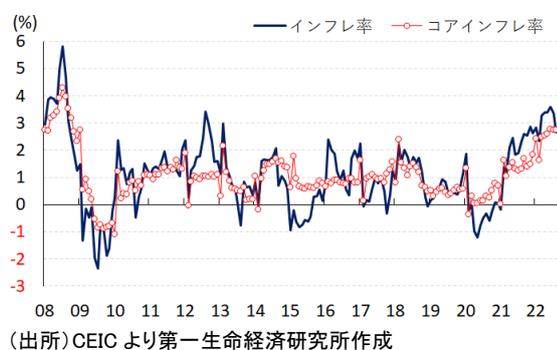
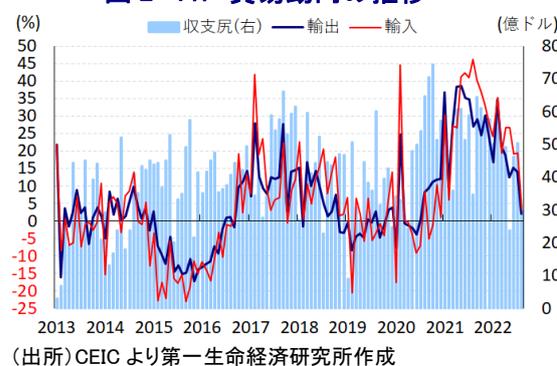


図2 TW 貿易動向の推移



[マレーシア]～世界経済の減速懸念による外需の不透明感に加え、中国のゼロ・コロナ戦略も生産の足かせに～

9日に発表された7月の鉱工業生産は前年同月比+12.5%となり、前月（同+12.1%）から伸びが加速した。ただし、前月比は▲3.89%と大きく拡大した前月（同+8.40%）の反動で2ヶ月ぶりの減少に転じており、鉱業部門や製造業の生産活動に下押し圧力が掛かっているほか、経済活動の動向を反映する発電量も減少するなど、全般的に経済活動に下押し圧力が掛かっている様子がうかがえる。世界経済の減速懸念の高まりを受けて輸出に下押し圧力が掛かる兆候が出ているほか、中国当局によるゼロ・コロナ戦略への拘泥を受けたサプライチェーンの混乱も生産活動の足かせになっているとみられる。

図3 MY 鉱工業生産の推移



[タイ]～生活必需品のみならず全般的にインフレ圧力が強まり、コアインフレ率も目標を上回る水準に加速～

5日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+7.86%と前月（同+7.61%）から加速しており、2008年7月以来となる伸びとなった。前月比は+0.05%と前月（同▲0.16%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、幅広い国際商品市況の高止まりを反映して食料品やエネルギーなど生活必需品で物価上昇の動きが続いていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.15%と前月（同+2.99%）から加速しており、中銀が定めるインフレ目標（2±1%）を上回る伸びとなっている。前月比は+0.09%と前月（同+0.50%）からペースこそ鈍化するも上昇が続いており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れに加え、金融市場における通貨バツ安による輸入物価の押し上げも重なり幅広い財価格に押し上げ圧力が掛かっているほか、感染一服による経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価も上昇が続くなど、全般的にインフレ圧力が強まっている。

図4 TH インフレ率の推移



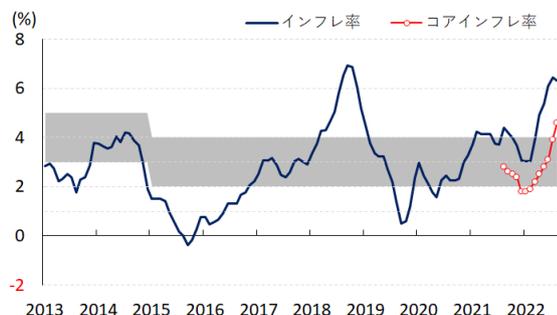
[フィリピン]～生活必需品のみならず、行動制限緩和による経済活動再開を受け幅広くインフレ圧力が強まる～

6日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+6.3%となり、前月（同+6.4%）から鈍化したものの、中銀の定めるインフレ目標（2～4%）を上回る推移が続いている。前月比は+0.43%と前月（同+0.78%）からペースは鈍化するも上昇が続いており、幅広い商品市況の高止まりの動きを反映して食料品やエネルギーなど生活必需品を中心にインフレ圧力がくすぶることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+4.6%と前月（同+3.9%）から加速しており、インフレ率とともにインフレ目標を上回る水準で推移している。前月比も+0.96%と前月（同+0.97%）並みの上昇が続いており、輸送コストの上昇の動きが一服する動きがみられるものの、これまでの輸送コストの上振れに加え、金融市場における通貨ペソ安による輸入物価の押し上げも重なり幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、感染一服による経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価も上昇の動きを強めるなど、全般的にインフレ圧力が強まっている様子がうかがえる。

9日に発表された7月の輸出額は前年同月比▲4.2%となり、前月（同+1.0%）から17ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は4ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するとともにペースも加速するなど頭打ちの様相を強めている。主力の輸出財である電子部品関連の輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、農産品や海産物などや鉱物関連など幅広い分野で輸出に調整圧力が掛かっており、世界経済の減速懸念の高まりが輸出の足かせになっているとみられる。一方の輸入額は前年同月比+21.5%となり、前月（同+26.3%）から伸

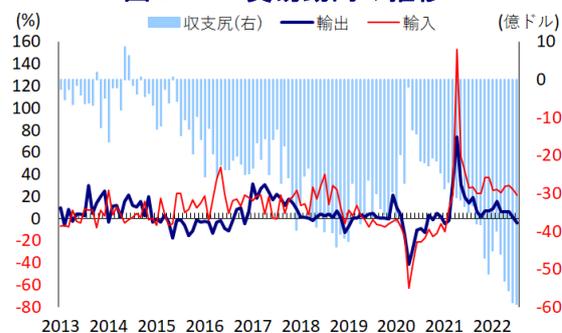
びが鈍化している。前月比も6ヶ月ぶりの減少に転じており、輸出と対照的に底入れの動きが続いた流れに一服感が出ている。輸出の低迷を反映して素材及び部材など原材料の需要に下押し圧力が掛かっているほか、商品市況の底入れの動きに一服感が出ていることも輸入額の重石になっている。結果、貿易収支は▲59.27億ドルと前月（▲58.69億ドル）から赤字幅が拡大している。

図5 PH インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 PH 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。